

●現地視察意見交換要旨(令和6年8月28日実施)

章	節	No	事業名【視察場所】	当日意見交換メモ
5	2	240	分別収集計画の見直し 及びその実施 【エコトピア亀岡】	◆集積した「埋め立てるしかないごみ」の中に燃えるごみや資源ごみが混ざっていることが多いため、中間処理業者が手作業で分別を行っている。 ◆中間処理に係る施設を新たに設置する予定はあるか。 ⇒現在のところはない。 ◆市内の小学4年生が校外学習で中間処理について学んでいる。説明を聞いた子ども達がおうちに帰り保護者に伝えることで分別意識の向上に繋がればと考えている。
7	3	335	河川維持事業 【西川～宮ノ谷川周辺】	◆土砂が堆積した河川は、大雨の際に下流への影響があるため、浚渫工事を行う。 ◆宮ノ谷川においても浚渫工事がなされ、当初堆積した土砂を全て取り除く計画であったが、蜚の生育環境のため一部残すなどの環境に配慮した取組を行っている。 ◆浚渫工事は何年周期で行われるのか。 ⇒流れてくる土砂のペースによるが、河積の3割以上となると、溢れる可能性があるため、一つの目安である。 ◆河川法では、治水、利水、環境が優劣ないものとされている。しかし、災害時の被害軽減のための工事が優先されている状況である。
1	3	29	移住促進特別区域を中心とした空き家利活用の推進及び移住希望者の案内強化事業 【霧の工坊】	◆地域に移住者が増えているが、そうした方との交流はあるか。 ⇒移住相談のタイミングで地域の方と繋がることができ、相談することができる。 ◆亀岡市の移住・定住の促進のため、どのような取組が必要だと考えるか。 ⇒移住の要因に子育て環境がある。亀岡市では小規模特認校制度や、自然保育など地域の特色を活かした取組があり、亀岡市の子育て環境を体験してもらう例えば、保育園の留学制度があればよいのではないかと。 ◆価値に気づかれず、取り壊される古民家が多い印象である。 ⇒移住希望者が多い反対に、売買、賃貸が可能な空き家が少ない状況である。これは、空き家を手放すことにネガティブなイメージを持たれている方が多い。 そのため、今年度から空き家を手放すことが、地域を活性化させるというポジティブなイメージに転換させるため、自治会を対象に「空き家発掘勉強会」をスタートした。 ◆空き家を手放すことに抵抗がある方には、売却だけではなく宿泊施設としての活用や賃貸として貸し出すなどの手段も周知することが必要ではないか。 ◆お試し移住体験の制度があっても良いのではないかと。